5月末組織人数
5,218人

岩手県連ホームページに
アクセス出来ます。→

建労いわて 月刊号

発行所
岩手県建設労働組合連合会
教宣部
盛岡市本宮一丁目７番２７号
電話　０１９－６３１－３２８０
ＦＡＸ　０１９－６３５－４０１５
発行者　藤井泰男

被災地でおもてなし
復興支援感謝祭で賑わい

岩手県連では6月2日（土）～3日（日）、東日本大震災から7年3ヶ月を迎える被災地宮古市で、6・2復興支援感謝祭を開催しました。

昨年の県連執行委員会から髙橋清一郎県連会長が、被災地で行われている復興支援に対して一定の区切りをつけたい旨を主張され、宮古建設組合から開催地の要請を受けて実現となりました。1部「宮古市民文化会館」2部「浄土ヶ浜パークホテル」3部「桜木町保健福祉会館」を会場に支援を頂いた全建総連の全国の仲間合わせて１３５人が参集しました。

1部では式典が行われオープニングに大槌町の「向河原虎舞風虎会」の虎舞を鑑賞し、髙橋元一副会長が開会のことばを述べ、その後震災物故者への黙祷をし主催者あいさつ。髙橋清一郎会長は全国のみなさんからの今日までのご支援に対する感謝の意と、今後の自立抱負を述べました。

来賓は3名（吉田三男全建総連中央執行委員長・佐々木澄夫北東地協会長・山本正徳宮古市長）で、それぞれの立場であいさつ。宮古市長は、同日盛岡市で東北絆まつりがあるにも関わらず出席され「震災時には宮古建設組合には大変お世話になった。日頃もお世話になっている」と宮古建設組合を讃えていました。

来賓あいさつの後、齋藤徳重顧問（前県連会長）より感謝のことばがあり、震災当初を振り返りながら心情深く語っていました。それから各団体からのメッセージを佐藤美智男書記長が紹介し、式典を高舘博人副会長が締めました。

会場を浄土ヶ浜パークホテルに移し2部の懇親会を開催しました。及川幸太郎副会長の開会のことばで始まり、会長あいさつの後、鈴木勇平前副会長の乾杯音頭で会場が賑わい始めました。続いて全建総連東京都連合会の木賀聖司副執行委員長、東京土建一般労働組合の松丸一雄中央執行院長がそれぞれあいさつをしました。

会場では県連青年部のアトラクション・県連教宣部の震災から今日までの記録映像スライド上映・けんれん主婦の会の「あじゃら節」踊りが披露されました。あじゃら節には飛び入り参加もあり会場を盛り上げていました。

中締めには、宮古建設組合の宮本勝吉組合長からの元気宣言があり満場の拍手が起きた後、大峠勝志副会長の閉会のことばで懇親会が終了となりました。会場には支援活動の時に撮影された写真が掲示され、半数以上を希望者が持ち返っていきました。

2日目の3部は会場を大槌町に移し「桜木町保健福祉会館」でミニ上棟式、主婦の会のほたての炊き込みごはんと青年部のイカポッポなどの「おもてなし」、地元産品の即売等で会場は賑わっていました。上棟式では景品を貰える番号付きの餅もまかれ、みなさん童心にかえっていました。参加者の中にはおもてなし料理をおかわりする方も多く、主婦の会・青年部の担当者は満足気に応えていました。

県外からの参加者は会場で買った手土産を持って帰りのバスに乗車。地元組合員、主婦の会、青年部の見送りに手を振り返して被災地を後にしました。

【教宣部長　藤井 記】

あじゃら節で懇親会場は大盛り上がり

ミニ上棟式ではアタリ付の餅もまかれました

多忙の中ご参加頂いた
山本正徳宮古市長

きずな

◆何か最近相棒が調子が悪いようだ。やっと出て来たと思ったらまた休みだ。家に来た時はピカピカの1年生だったのにもう23年にもなる。職人だったら一人前で今が1番油がのって良い時期だが、急に休まれたのでは仕事にならない。

◆誰もが経験している事だと思うが急にでは困る。職人にとっての足でもあるし道具も山の様に積んでいる。なくてはならない相棒だ。何を隠そう私の愛車トラックの事だ。人間なら痛いとか、かゆいとか調子の悪くなる前に何らかの前触れがあるが機械は突然だ。急にストップ、動かない。廻らない1日の仕事の段取りがパーになる。

◆今の世の中、職人さんが現場に持ち込む電動工具は一体何十種類に及ぶのだろうか。きちんと気を付けていれば調子の良い悪いはすぐ分かるのだろうが、それでも見過ごしはあるだろう。出来れば人間と同じで無理をしないで調子を見ながら安全に使用したいものだ。これからもずっとお世話になる大事な相棒なのだから。

【教宣部　小野寺　春男】